

キュウリ・メロン等生産者のみなさまへ

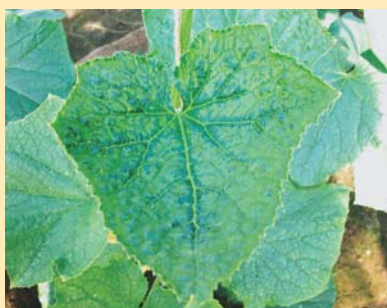
# キュウリ黄化えそ病（MYSV）の発生に注意しましょう！！

キュウリ黄化えそ病は **MYSV** (*Melon yellow spot virus* : メロン黄化えそウイルス) の感染によっておこるウイルス病です。このウイルスは、主にウリ類に感染し、国内では**キュウリ**、**メロン**、**スイカ**で発生が確認されています。

宮崎県内では、平成17年2月に初確認されて以降、これまで発生がありませんでしたが、最近、新たに一部地域で発生が見られ始め、発生の拡大が懸念されています。



上位葉の葉脈透化



上位葉のモザイク



えそを伴う退緑斑点

発生初期には、生長点付近の若い葉に葉脈透化がみられ、その後、葉脈間の淡緑化、退緑斑点、モザイクや黄化、えそ等の症状を呈します。

MYSVは、**ミナミキイロアザミウマの吸汁によって伝染**し、種子伝染や土壌伝染、管理作業による汁液伝染はしません。しかし、一度発生すると、**キュウリやメロン、スイカなどウリ科作物**が周年的に栽培される地域では、ミナミキイロアザミウマを介して急激に蔓延、定着し、根絶するのが困難になりますので嚴重な警戒が必要です。

平成20年 1月

宮崎県・社団法人宮崎県植物防疫協会



新葉のモザイク



成葉の黄化・モザイク



成葉のえそ斑・退緑



成葉の黄化・モザイク



成葉の葉脈透化(佐賀 中村原図)



成葉の黄化(佐賀 中村原図)



果実の症状



媒介虫  
ミナミキイロ  
アザミウマ  
(体長 約 1.2mm)

### メロンでの症状 (高知 竹内原図)



成葉の症状①



成葉の症状②



果実のネット形成不良

防除  
対策

## ミナミキイロアザミウマの防除 及び ほ場内外の除草を徹底しましょう！！

- 1) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取り、ハウス内でビニール袋等に入れて密封処理します。  
(媒介虫であるミナミキイロアザミウマの拡散を防ぐとともに死滅を図ります。)
- 2) 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、裾部等の隙間も無くし、媒介虫の侵入・拡散を防ぎます。
- 3) 青色(黄でも可)粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努め、確認したら初期防除を徹底します。
- 4) ミナミキイロアザミウマの防除は育苗期から徹底し、ウイルス感染及び本ぼへの持ち込み防止に努めます。  
また、薬剤防除に当たっては、抵抗性の発達を避けるため異なる系統の薬剤をローテーション使用します。  
(農薬使用に当たっては農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。)
- 5) ほ場内及び周辺の雑草は、媒介虫の生息・増殖場所や病原ウイルスの保毒源となるので、除草を徹底します。
- 6) 施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉処理を行い、媒介虫が施設外に飛び出さないようにします。
- 7) 地域間での苗の移動に関しては、育苗初期からの徹底したウイルス対策を条件とするなど、十分な注意を払う必要があります。
- 8) 本病と疑われる症状が発生した場合には、最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除・肥料検査センターに連絡して下さい。

このチラシに関するお問い合わせ先

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 0985-73-6670